



連携事例19

R5.8 更新

ひまわりサロン

～安心、安全、楽しい街づくり～



住民の誰もが気軽に集い、おしゃべりや情報交換など
楽しく過ごしていただく「ひまわりカフェ」で孤立防止

■協働パートナーの種別

NPO	企業	行政	教育	地縁
-----	----	----	----	----

■事業運営団体

- ・四街道市旭中学校地区民生委員児童委員協議会

■協働パートナー

- ・四街道市旭中学校地区社会福祉協議会
- ・旭ヶ丘自治会 ・みそら自治会
- ・鷹の台自治会 ・みなみ地域包括支援センター

■事業費

10万円

■資金調達手段

利用料等受益者負担・
運営団体負担・その他

事業概要

四街道市旭中学校地区では、最も高齢化が進んでいる旭ヶ丘団地を皮切りに、2年間で3か所の団地にサロンを立ち上げる計画を練り、アンケートやPR・広報を経て、世代、地域を問わず誰でも気軽に参加できるひまわりサロンの誕生させることができました。そうして立ち上がったサロンは、民生委員が全員運営委員であり、自治会が会場を優先的に確保し、社会福祉協議会がサロンの社会的信用を担っています。

各サロンでは地域のニーズに合わせ、歌やゲーム、福祉健康講座などを開催し、参加者は年間1万人を超えるようになり、住民が住み続けたいと思う安全・安心・楽しい街づくりにつながっています。

協働までの経緯

少子高齢の団地において、地域住民は高齢化の不安、子育ての不安を抱えています。SNS等を利用して必要な情報を得たりしていますが、もっと身近に皆が気楽に集える場所があれば、いざという時に助け合えるネットワークが作れるのではないかと考えました。

この事業を推進するためには場所の確保、運営する人と資金、等々一つの組織では乗り越えられない大きな問題がありました。平成26年1月に地区社協の研修があり、自治会、民生委員、地区社協の会長が一堂に会する機会がありました。それぞれに悩みや問題を抱えていましたが、なかなか話し合う機会も無く模索している状態でした。

地域の見守りは民生委員の重要な仕事の一つですが、増加する見守り対象者に限界を感じていました。特に東日本大震災時には、まだ揺れ動く中での安否確認等は民生委員だけでは出来ない事を痛感させられ、地域の連携協力体制を作ることが急務でした。

自治会も又、高齢者対策に頭を悩ませていました。自治会の当番が出来ない、草取り作業が苦などを理由に自治会を抜けていく高齢者に加え、若い人が自治会に入らない。

そのため旭ヶ丘、みそらでは自治会加入率が70%を切るほどまで減ってきました。鷹の台は高齢化率20%前半、自治会加入率95%ですが、自治会に全く関心が無いという現状です。

自治会加入率が減れば会費収入も減るという現実、社会福祉協議会も頭を悩ませ、同時に社会福祉協議会の活動を、目に見える身近な事でPRして市民の理解を得たいと考えていました。

そのような三者の思いが研修で出会った際に合致して、平成26年2月に「安全・安心・楽しい街づくり」を目指して、それぞれの団地にサロンを作る『プロジェクトひまわり』が誕生しました。

主な事業内容(年間スケジュール等)

- ・ひまわりサロン「旭ヶ丘」毎週月～金 13:00～16:00
 - ・ひまわりサロン「みそら」毎週火・金 13:00～16:00
 - ・ひまわりサロン「鷹の台」毎週火・木 10:00～12:00
- ☆各サロンとも定例的に、週一貯筋体操、ペタンク(ゲーム)、皆で歌おう、DVD鑑賞、福祉健康講座、相談コーナーを開設。他に季節毎に様々な地域交流イベントを展開しています。

主な協働パートナーとの役割分担

- ・旭中学校地区民生委員児童委員協議会
サロンの運営委員となりサロン運営の中枢を担う。参加者や協力者への呼びかけをし、要望や相談に応じる。
- ・旭中学校地区社会福祉協議会
地域福祉活動費としての予算の確保、福祉に関する情報提供
- ・自治会
活動の場の提供。広報、補助金等の資金調達等

協働事業によって生まれた成果

- ・三者協働事業であるために、自治会員、非自治会員関係なく地域や年齢を問わず、いつでも誰でも好きなサロンに行くことができる。また、サロンのボランティアスタッフは、旭ヶ丘、みそらで50名以上の方が登録してサロンの運営に協力しています。旭ヶ丘、みそら、鷹の台のサロンへの参加者は、年間で1万人を超えています。
- ・みそら地区では、民生委員による事前アンケートで、買い物難民の不安が突出していましたが、セブンイレブンの出張販売等を経て、現在はスーパーの出張販売等で買い物支援を試みています。
- ・その他の活動も含め、先進的事例として、他市・他県からの視察もあり、四街道市のPRに貢献しています。

今後力を入れていきたいこと

- ・地域課題の解決に向けて各サロンに「オレンジカフェ」を設けます。まずはみそらから、全住民対象に認知症の講座を開催して地域の理解と協力を得て始めます。次に旭ヶ丘、鷹の台と順次すすめて参ります。
- ・みなみ地域包括支援センターが各サロンに月1回出張相談所を設けたように、今後は常に行政とも連携して、地域住民の利便性を図ります。
- ・ボランティアスタッフが楽しめるような企画も多くして、居心地良く継続してくれるように努めます。
- ・高齢者と子育て世代の共催イベントを更に増やし、若いお母さんたちが運営の中心的存在になるよう移行して行きたいです。



健康講座や講習会などを開催し、暮らしに役立つ情報の提供



ハロウィンに仮装して街を歩いてお菓子をゲット！
子どもたちは地域を知り、住んでいる人たちとふれ合います。

コラボのコツ!!

★コツ1

各サロン運営委員会には自治会、地区社協、民生委員(地区担当全員)が必ず参加。それぞれの立場で企画運営に参画しています。

★コツ2

1つ1つのサロンの地域性と特色を生かせるよう、通常サロンの運営は各サロンに任せていますが、サロン間の交流、情報交換も密にします。

★コツ3

若い人たち、通常参加が難しいスタッフの意見を汲み上げるためにLINE等を活用しています。

協働事例プロフィール

【活動開始年】平成26年5月 【活動のPR手法】facebook.com/asahichuchikushakyo、自治会会報 チラシ

【この事業で活用した補助金】 全国民生委員共励事業助成金(平成26,27年)

四街道市社会福祉協議会地域福祉活動費

【問い合わせ先】 担当者：岡田はる美 電話番号：043-432-0409 メールアドレス：hokado@athena.ocn.ne.jp